

地域の輪

岡山県倉敷市立北中学校 2年 野上 みこと



私が育ってきた家の近くは、昔ながらの地域で、古い家や田んぼや畑も多く高齢者も多く暮らしている。

そんな中で私も、ひいおばあちゃんと、祖父母と、両親がいる四世代家族の中で育ってきた。

近所の人、私が生まれたときから知ってくれている人ばかりで、朝は家を出ると「おはよう、行ってらっしゃい」夕方になって帰ってくると「おかえり」運動会などの学校行事があると「がんばったなあ」とほめてくれ、久しぶりに会うと「ちょっと見ん間に大きくなったなあ」と声をかけてくれる。

私の祖母も、話好きで朝や夕方になると、家の前の道に出て、近くを通りかかった知り合いの人に誰にでもすぐに話しかける。私の友だちが家に来ると「あなたはどこの誰?」「あー〇〇さんとの孫かー」と話し出すととまらない。

家族は祖母の話好きにあきれているが、父は自分が生まれて育ったこの地域が、好きだという。若いころに他の所に住んでいたこともあるというが、結局ここに戻ってきたそうだ。

父は祖父が亡くなった八年前から、地域の役員や、地域の仕事をすることになったそうだ。近所に誰が住んでいるかも分からないなど、近所付き合いが少なくなってきているこの時代で、地域の役員をすることによって今まで付き合いのなかった人たちとの交流が増え、自分たち家族が安心して暮らしやすくなるためだという。

この地域が好きで暮らしやすくても、父は祖父が亡くなっていなければ、きっと今でも必要以上に地域に関わることも、役員もすることなく、そもそも役員をする必要もなかっただろうと言う。始めたきっかけは、持ち回りの役員の順番が回ってきただけで、今までしていた祖父がいなくなったので、仕方なくやるしかない引き継いでやっていただけだったそうだ。

初めて役員をする中で、何も分からない時に、お世話になった人がいるそうだ。その人は、私の家が家族ぐるみで仲良くしている友だちのおじいちゃんだ。今でも地域の役員をしている。大人がたくさんいる中で、自分が一番に動いて行動する人だそうだ。あれほど地域のことを考えて動いてくれる人はいないという。

父は、その人から誘われたこともあって、持ち回りの役員が終わった今も、私や兄の友だちのお父さんと一緒に新たな役員を始めている。役員を経験したことで、知らなかった地域のことを知ることができたらしい。そして、今まで

地域のために動いてくれていた人たちが高齢になりそろそろ自分たちの年代が引き継いでいかないといけないと思ったそうだ。

今までもこの地域で育って、これからもこの地域で暮らしていくために「今までは、地域の高齢者がやってくれていたけど、これからはかわりに、誰かがやってくれないといけない。自分ができることは協力して、自分が住んでいる地域を少しでも良くしたい」と言う。

私は、住んでいる地域が好きとか嫌いとか考えたことはなかった。そもそも、いつまでこの地域に残って生活するかは分からない。もしかするとずっとこの地域にいるかもしれないし、高校を卒業するとここを出て行くかもしれない。だけど、今はこの地域で生活していて、この地域での生活に不便を感じていない。不便を感じずに安心して暮らせているのは、きっと私が知らないだけで、地域の大人たちが私たちのことを見守ってくれているからなんだと思った。

色々な事件や事故が多い今、街灯を増やして夜道を明るくしたり、町中に防犯カメラをつけたりすることも、大切なことだ。

しかし、一番大切なことは人と人との繋がりで、コミュニケーションだと父は言う。普段からお互いを思いやり、地域で声をかけ合うことで、犯罪を未然に防いでいくことができると思う。